

どうぶつの先生からのたより



発行元：社団法人 愛知県獣医師会

北風が肌をさすような寒さになってきました。動物たちも冬の備えをしなくてはなりません。動物たちは秋には食欲が増してエサをたくさん食べるようになります。これは寒い冬に備え脂肪を蓄え寒さをしのぐためです。人が服を着るのと同じですね。この服が着られないと冬を乗り切ることが出来なくなります。秋の内に十分にエサを与えて下さいね。コンクリートの床の飼育舎などはとても冷えますので巣箱を用意してあげてください。



また飼育小屋の周囲をビニールで覆うなどして寒さに備えましょう。冬の対策やご相談などがありましたら愛知県獣医師会へご連絡下さい。

●動物と仲よくなる方法●

●やってはいけないこと●

かならず守ってね



しゃがんで自分を小さく見せて、静かにゆっくり近づく



やさしくさわって、ゆっくり抱いてみよう



大声や大きな音を出す



とつぜんさわったり、抱いたりする



下の方からそっとエサをさしだす



もう、ともだちだね。



頭の上からさわろうとする

先生・保護者の方へ

「学年動物飼育が子供に与える影響」

全国学校飼育動物研究会 中川美穂子 (白梅学園大学大学院・子ども学研究科)

動物の世話やふれあいが、子供の動物に関する知識及び動物や人への思いやりや学校適応に与える影響について、1学年(4年生)全員が動物の世話をする学年飼育に注目し、調査をおこないました。

その結果、良好飼育群は他の不適切飼育群や飼育しない群に比べて、「動物に関する知識」「学校適応」「向社会的態度」「人への温かさ」において明らかに良い影響が見られました。

なお、飼育なし群は、一般に見られるように成長するにしたがって道徳性や学校適応が低下しましたが良好飼育群の子供たちは、飼育中に受けた良い影響が飼育終了後もつづき、ほとんど下がらませんでした。(09年7月第59回理科教育学会 中川美穂子、中島由佳発表)

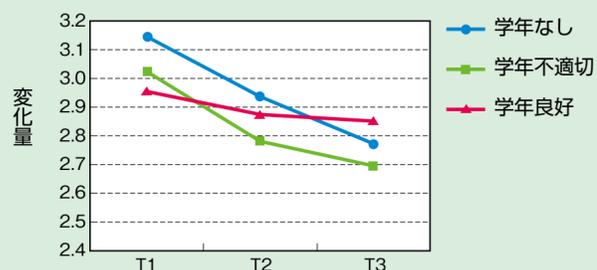
結果から、体験を抜きにした道徳教育は効果が薄いことと、丁寧な飼育活動には、いま求められている道徳的意義が非常に高いことが言えます。また、良好な飼育活動は、不登校への対応にも効果があることが確かめられました。どこにも飼育動物はいるのですから、その使い方が、重要といえます。

注 良好飼育群：交代で学校動物を世話。学校側に教育的ねらい。教員が積極的に関与。獣医師に相談・指導を受ける。

不適切飼育群：交代で学校動物を世話。教育的ねらいはなし。教員の関与が薄い。獣医師にほとんど相談なし。

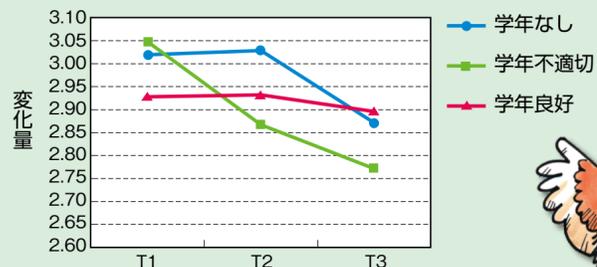
学校適応(群ごとの平均値の変化)

09年日本理科教育学会にて中川と中島が発表



向社会的態度(群ごとの平均値の変化)

09年日本理科教育学会にて中川と中島が発表



横軸：T1：学年飼育開始前(3年終わり) T2：1年間の学年飼育終了後(4年終わり) T3：学年飼育終了から1年後(5年終わり)

*59回理科教育学会の詳しい資料は獣医師会までお問い合わせ下さい。



クイズコーナー

第2回目は、「森」のなぞなぞだよ。



(答えはこの新聞のどこかにあるよ)

第1問

木が3つで森、2つだと林、じゃあ木が5つだとなんて読む?

第2問

「森」の中にある どうぶつってな〜んだ?

第3問

じゃあ、学校の森にすんでいる どうぶつな〜に?

愛知県獣医師会は、学校の動物飼育を応援しています。学校で飼育している動物のことならどんなことでもご相談ください。

社団法人 愛知県獣医師会
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目7番9号
チサンマンション丸の内第2-901号
TEL 052-961-3435・5844
ホームページアドレス <http://www.aichi-vet.or.jp>
E-mail: office@aichi-vet.or.jp



●構成・イラスト：熊谷さとし ●レイアウト・印刷：ニシ工芸株式会社